

2020/8/15-2

(うとQ ブログ 元気のなさの正体 その5 オマケ篇)

本日終戦記念日。

又、今日は開戦12月8日と同年月日に生まれ、同終戦年月日の本日に他界した祖母の命日。
で、本日は戦後特に目立ってきた兆候の話の一つ。

「一度でも失敗したらダメ」

「一人にでも嫌われたらダメ」

と、無意識野に迄浸透するほど幼児期から暗黙裡に教わってきた。

しかし、そんな上手い方法のある訳もなく。

というより、そもそもそれ自体が道理不適合なのである訳がない。

ある訳がないものを探しているから見つかる筈がない。時間ばかりいたずらに過ぎ、その内
臨終を迎える。

「ならば止めればいいのに」

と思うものの、中々そうはならない。

まず、上記に付け込んで

「一度も失敗しないお手軽な方法があります。貴方にだけ」

又は

「誰からも愛され嫌われない方法があります。貴女にだけ」

というお誘い広告。

「面倒臭いの、是罪悪」の現代人は程度の差こそあれ、この手の広告にあっけなく陥落。
陥落迄いかない迄も、目と視野と方向がそちらの方に向かされてしまうか、向いてしまう。
益々事実から遠ざかり、相変わらず「ないもの探しの旅」を続けさせられるか、続ける。
そうして更に混迷の度合いが深まる。

分岐点は何処？

一番初め。

曰く

「一度でも」

「一人にでも」

のスタート時点からの完全無欠要求。高すぎるか「あり得へん」ハードルの高さ。

是では元気の出る訳がない。恐怖で縮こまって手も足も出せぬ「達磨さん」状態。

生まれ落ちたその瞬間から「リスク・テイク (冒険又は挑戦)」という単語を人生の辞書から
delete され、代わりに「愛情たっぷり」という美名の元に事実上「自宅幽閉人生」を申し
渡されたに等しい。

是を分かり易く一言で言えば

曰く

「過保護 (による懐柔)」

(以下、オマケ)

これは実父母による我が子への「悪魔の懐柔策、不平等和平協定(草案)」突如(最終案)に昇格の後、一方的締結の如き也。

本日は終戦記念日により、自前にて上記協定案、創案。

(尚、日米終戦(和平)協定、降伏調印は1945年9月2日米国戦艦ミズーリ号艦上にて調印されております。本日付けには之、あらず。受験生は誤解無きよう)

しかし、何故実父母が実子にこのようなことをするのか?

それは、実父母そのものが周囲からの「親の責任」への詰問視線を浴びているからではないでしょうか。

なんでもかんでも「親の責任」「上司の責任」「管理監督者の責任」と須らくあらゆることにおいて詰問視線を常時投げかける周囲の存在。

「あんた、自分の子(自分の部下)の管理監督もできないのか? いったいこの責任を親として(上司として)どう考えているんだ」と。

かくの如き「責任警察」の周囲が、本来、親の責任でもないことまでをも、十把一からげにすべて「親の責任」として詰問してくるために「非難を受けないためには、徹底的に我が子を自分の管理監督内に置き、逸脱の萌芽である冒険やら挑戦などという不確定要素は完全に取り払わなくてはなるまい」

との思いが無意識に芽生え、それをまた無意識に自分と奥さん子供を含めた「我が家の安全」の為におこなってしまう。

例えば、その周囲の詰問視線の逸脱(即ち「責任警察」)の一例としてTVワイドショーのある有名司会者の30歳を過ぎた息子が不祥事をしでかした際に、ワイドショーマスコミは、その司会者の元へはせ参じ「この件についての責任をどうお考えですか? どう締めくくっておつもりですか?」

と鬼の首でも取ったかのようにマイクを突きつけ詰問しておりましたが、ふと思ったのが「不祥事をしでかした息子は30歳過ぎなんだろう? じゃあ、なんで本人のところに行かないんだ?

何故、親のところに行き先に行くんだ?

不祥事をしでかした子供が、20歳前ならわかる。

なんなんや、こりゃ?

20歳過ぎたら親子は、別々独立の社会人やが。

一体いつまで親や子や、言うてんのや。あほ、ちゃうか、こんたら。

無名の息子とところへ行ってもワイドショーとして金にならんから、行きおろうが? あん?」

事程左様に我が国においては、言論界、教育界、政界、官界の先生やインテリと呼ばれる方々ほど、あまり「お利口さん」とは言えない気がしてなりません。

完全なるミスリード役としか言えないような気がしております。

(以上、オマケでした)